弥生時代の高地性集落

国指定史跡

会下山遺跡（えげのやまいせき）

芦屋市教育委員会

国指定史跡　会下山遺跡

会下山遺跡は、兵庫県芦屋市三条町にある国指定史跡で、弥生時代（今から約2000年前）の高地性集落跡です。高地性集落とは、水田を営むには不便な山の上にあった集落のことです。

会下山遺跡は、昭和29年（1954）に、会下山の麓にある市立山手中学校の生徒たちが植物実習園をつくるために山道を切り開いていたところ、出土した弥生土器の破片に気づき、発見されました。

この発見を受けて、昭和31～36年（1956～1961）には、芦屋市教育委員会が発掘調査を実施し、竪穴住居跡や祭場跡など、さまざまな生活の痕跡が見つかりました。

発掘調査の結果、会下山遺跡は、山の頂から山裾まで、山全体に広がる大規模な集落跡であることがわかりました。そして、弥生時代中期後半から後期前半（紀元前２世紀～紀元１世紀）の間、300年近くにわたって長期間営まれていた集落であったことも明らかとなりました。

また、この遺跡からは、当時、大変貴重であった鉄器が多数出土しており、中国大陸で作られた青銅製漢式三翼鏃が採集されていることから、積極的に交易を行っていたことがわかります。

現在、遺跡は歴史教材園として整備され、子どもたちの学習の場として、また、市民やハイカーの憩いの場としても親しまれています。

南東方向から見た会下山遺跡（赤色の楕円で囲んだ尾根）

発掘回顧

えげのやま

今から60年以上も前、わたしの青春時代は会下山でした。こんな山の上に弥生人が果たして住んでいたのだろうか。その疑問は、数年間の発掘で次々と住まいの跡が見つかり、解消しました。尾根筋の高みには大きな家があり、柵で区画され、さまざまな物を持っていました。当時は村長の家だと考えることにしました。その裏、少し高いところには、仮小屋とケルンのような石組がありました。祭場が付設されたのでしょうか。さらに上の方にも貝殻がいっぱい出てくる祭場を見つけました。ここはその後、共食用の高杯が豊富に出ていることが指摘されており、住人たちにとって特別な場であったことが補強されています。

集落の一画には屋外調理場を設け、ことあるときには、のろしをあげたようです。尾根の上には手ごろな湿地があり、泉が涌いていました。ただし、井戸などは見あたりません。数分すれば、山麓の高座川にたどりつき、川の水にはありつけたことでしょう。集落のはずれには墓地をこしらえたらしい。副えられた土器の中にガラス小玉が１点ありました。

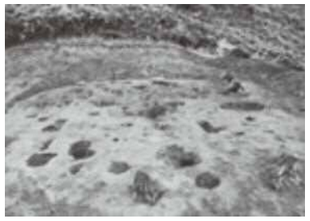
弥生山城の首長の家は大阪府東山遺跡に、のろし場は奈良県上ノ山遺跡に、水場は岡山県貝殻山遺跡や大阪府古曽部・芝谷遺跡に、祭場は兵庫県大盛山遺跡や島根県田和山遺跡などにそれぞれ認められます。会下山遺跡ではそれらがことごとくそろい、仮小屋と石組の祭場は、日本列島のどこをさがしても例がありません。さらに景色の良い山頂のムラの祭場も例が少ないものです。当時、石組を南西諸島、沖縄のウタキの習俗と関連づけて、発掘調査後の報告書を書きましたが、果たして、夢か幻か。この遺跡をとくとご覧いただいて、みなさんもいっしょにお考えください。

兵庫県立考古博物館名誉館長
会下山遺跡・城山遺跡調査委員会委員長
石　野　博　信

発掘調査中の会下山遺跡（昭和30年代）
芦屋市内で初めての発掘調査で、大学生に混じって市立山手中学校歴史研究部の生徒も参加しました。

会下山遺跡を発掘する調査員と中学生
炎天下、祖先の足跡を求めて山の頂で黙々と発掘を続けました。上半身裸でがんばっているのは、大学院生の私です。

柵でまるく囲まれているのは、発掘された竪穴住居跡です。　（7 ページ参照）



発掘された最も大きな竪穴住居跡で、面積は約60㎡です。村全体で共同に使った集会所？それとも工房？村長が住んでいたのかも！？
（7 ページ参照）

祭りに関わる石組や小屋が見つかっています。男性器を模した石製品やガラス小玉が出土しました。（8 ページ参照）

季節によってはイノシシも顔をだしますよ。急な坂道も多くありますので、足もとにご注意を！

会下山遺跡の北端には二重の堀跡が見つかっています。
※遺跡はここまでです。
（9 ページ参照）

ここは見晴らしが最高！遺跡の中で最も高い場所です。標高は約200m。弥生時代には祭場でした。
（6・8 ページ参照）

火たき場跡。共同調理場？ノロシをあげた跡？火をあつかうため、風向きも考えられています。
（8 ページ参照）

高床倉庫が復元されています。「茅葺き屋根」「ねずみ返し」など、当時の人びとの工夫を観察してみましょう。

発掘された竪穴住居跡の触覚模型があります。
※遺跡はここまでです。

乳幼児の墓が４基見つかっています。　（9 ページ参照）

ようこそ、会下山遺跡へ！

2000 年前、会下山遺跡では、いったいどんな生活が営まれていたのでしょうか。
生活のようすを考えながら、遺跡を歩いてみましょう。
自然にとけこみ、自然を利用し、自然に守られ、自然とともに生きる。
会下山遺跡の人びとは、山の自然と共存して暮らしていました。

※地図内の赤色や水色、灰色の長方形は発掘調査区で、現在は埋め戻されています。
※青字のアルファベットは、発掘調査時の地区名を意味しています。